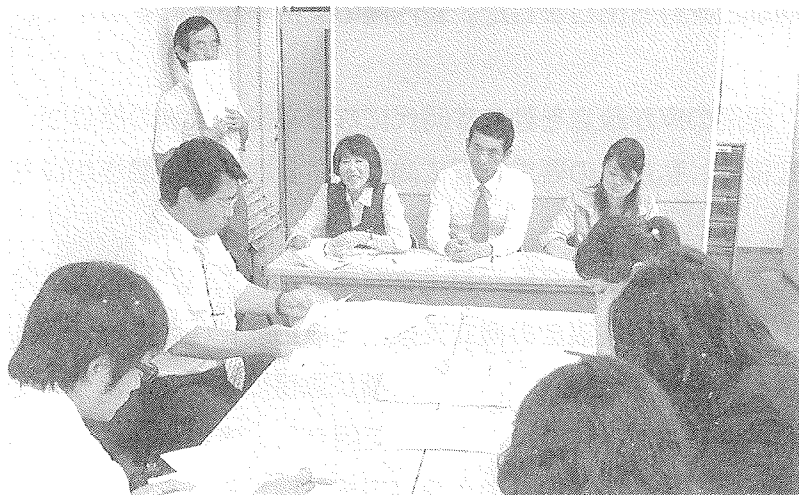


## “介護費用に負担感” 45%

### 山梨民医連が調査結果を発表



介護保険利用者実態調査の結果を  
発表する山梨民医連の人たち 6  
月21日、県庁

山梨民医連は6月21日、介護保険利用者実態調査の結果を発表しました。

同調査は、山梨勤労者医療協会の居宅介護支援事業所、介護予防支援事業所で2009年10月に介護保険サービスを利用した830人を対象として実施されました。ケアマネジャーが聞き取り調査をし、570人(68.8%)から回答を得ました。

同調査では、介護費用の負担感について、「大いに思う」(11.3%)、「思う」(33.8%)と回答。45%の利用者などが負担感を訴えました。

### 入所待ち3年以上が2割

利用者の35%が、本人、主介護者がともに65歳以上の「老老介護」でした。

施設入所について、13.1%が申請をしていました。その理由(複数回答)として最も多かったのは「家族介護ができない」(62.5%)でした。「念のため」は34.7%にとどまりました。

入所待ちの期間は1年以上が過半数で、3年以上も2割近くにのぼりました。

### “サービス不十分” 4割

「十分なサービスを受けていると思うか?」との設問では、ケアマネジャーが利用者の41.2%について「思わない」と答えました。サービスが不十分な原因(複数回答)として「経済的負担」があげられた利用者は33.5%でした。

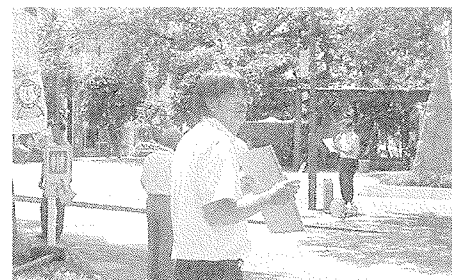
介護保険制度はスタートして10年が経過しました。5年ごとの介護保険法見直しのための論議が進められています。

山梨民医連は、「介護は長期化し、介護者の負担は依然多く、必要なサービスも使えない。『介護の社会化』が実現したとはいえない。貧富の格差が介護の格差とならない『権利としての介護保障制度』への改定が必要です」と話しています。

### 後期医療廃止を訴え

山梨県社保協は6月15日、甲府駅南口で、後期高齢者医療制度の即時廃止を求める街頭署名行動を実施しました。(写真)

ハンドマイクで「民主党政権は『政治を変えてほしい』という期待や、自らの公約を裏切り続けている。後期高齢者医療制度の廃止先送りも、ひどい公約違反です」などと訴えました。



## 国保正規保険証取り戻した

### 梨商連、県社保協などの交渉で成果

国民健康保険料(税)を払えず、短期保険証を発行されていた甲斐市、甲府市の自営業者に、正規の保険証が発行されました。

梨商連、梨商連共済会、県社保協の3団体は5月25日、甲府、甲斐、笛吹の3市へ、国保の負担軽減、無保険の解消などを求める要請書を提出しました。(「山梨社保協ニュース」No.91で既報)。

その席上、高すぎる国保料(税)を払いきれない中小業者に、短期保険証が発行されている実態について、梨商連の代表から、切実な訴えがありました。

これを受け、甲府、甲斐の両市がそれぞれ、滞納している業者を訪問して事情を聞き、サラ金への過払いの返還請求などを

経て、正規保険証発行に至りました。

### 一部負担減免きめ細かく 対応する 甲府市が回答

梨商連、県社保協が5月25日に提出した、国保改善などを求める要請書に対する回答がこのほど、甲府市から届きました。

同市は、国保法第44条にもとづく医療費一部負担の減額・免除について、「きめ細かく対応する」と答えました。

国保料滞納者に対する高額医療限度額認定証発行については、「国保法施行令第1条に規定されている、世帯主の財産が災害を受けるなどの『特別な事情』がある場合には、保険料の納付のご相談をいただく中で対応している」としています。

### 移送費支給求め懇談 大月生健会など

通院時の交通費(通院移送費)や、求職活動のための交通費を、生活保護受給者に支給することなどを求め、「大月生活と健康を守る会」(大月生健会)と「山梨生活保護利用支援連絡会」(山梨生保連)は6月28日、大月市と懇談しました。

懇談には、16人が参加しました。生活保護受給者らは、「通院移送費が支給されることについて、説明を受けていない。報

道で知った」「申請しようとしたが、申請書を渡されなかったことがある」などと訴えました。

同市の担当者は、「制度の趣旨に沿って、認められるものは認める」などと回答しました。

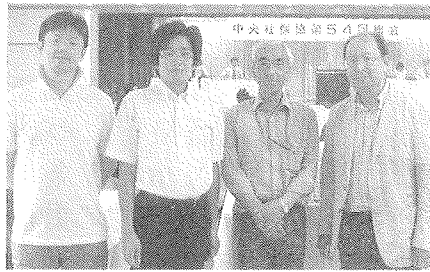
両会はこのほか、「生活保護のしおり」に通院移送費についての記述を入れること、生活保護受給者に対し、支給明細が分かる調書を交付することなどを求めました。

## 中央社保協総会

### 山梨から4人参加

中央社保協総会が6月11、12の両日、新潟県内で開かれました。全体で77人（山梨からは4人）が参加しました。（写真）総会では「社保協運動を広げよう」と訴えるアピール（別項）が採択されました。

相野谷安孝事務局長は、差別医療の対象を拡大する「新しい高齢者医療制度」や、介護保険法改悪、消費税増税などを阻止するための国民的なたたかいを呼びかけました。



### 自立支援法改定案

#### 国会閉会で廃案に

障害者自立支援法改定案が6月16日、国会閉会にともない審議未了・廃案になりました。

障害者自立支援法廃止後の障害者福祉のあり方については、当事者参加のもとで論議が進められています。同改定案は、その議論を無視し、自民・公明案と民主・社民案を一本化する形で5月に国会提案されました。

同改定案については、当事者抜きで決められたこと、時限立法になっておらず、自立支援法「延命」につながる内容であるとして、障害者・支援者団体が

強く批判していました。

山梨県社保協は、障害者自立支援法「延命」の動きをやめることなどを求める文書を、5月28日に衆・参両院の厚生労働委員に送りました。

### 高齢加算の復活を 県社保協が文書送付

生活保護の高齢加算の減額・廃止処分の取り消しを求める裁判で、福岡高裁が6月14日、原告勝訴の判決を言い渡しました。山梨県社保協は6月16日、同判決について上告せず、高齢加算を復活させることなどを求める文書を、菅直人内閣総理大臣と長妻昭厚生労働大臣、山梨県選出の国会議員（小沢鋭仁、坂口岳洋、後藤斎、輿石東、米長晴信の5氏）に送りました。



北九州市は同判決について国と協議した結果、「上級審の判断を仰ぐ必要がある」として6月25日、最高裁に上告しました。

### 後期医療廃止請願

#### 甲府市議会で不採択

山梨県社保協が08年6月に提出した、後期高齢者医療制度の廃止を求める請願が、甲府市の6月議会定例会で不採択となりました。

県内ではこれまでに、同制度の廃止を求める請願が身延町議会で採択されました。同制度の改善を求める請願は昭和、南部、小菅、丹波山の4町村議会で採択されています。

## 中央社保協総会アピール

### 安保闘争50年、朝日訴訟50年、社会保障諸要求実現に向けて、社保協運動を広げよう

第54回総会は、憲法を地域に職場に、国民諸要求実現といのちと暮らしを守る社会保障運動の前進に向けて、2日間討議を行いました。

6月2日突然、鳩山首相が、普天間・政治とカネ・公約違反の責任を取って、辞任しました。この間、後期高齢者医療制度、障害者自立支援法の廃止など相次ぐ公約違反に、国民の怒りと不信が渦巻き、内閣支持率が10%台に低落する中で、辞任に追い込まれました。その後に誕生した菅連立内閣は、9日の記者会見で、日米共同声明推進、最小不幸社会、消費税増税の方向などを打ち出しました。菅内閣の支持率が上昇する中で、参議院選を行おうとしています。

構造改革のもと「格差と貧困」が拡大する中で、国民の声が政治を動かす時代になり、国民世論の怒りが、政治を変えてきています。いま私たちは、菅連立政権に、私たちの要求実現に向けて、公約実現の働きかけを一層強めていくことが重要になっています。

第174通常国会は、6月16日に閉会をむかえます。会期延長問題が報道される中、私たちの要求、後期高齢者医療制度の即時廃止、生活保護の高齢加算の復活、障害者抜きの自立支援法「改正案」（延命策）反対、地域主権関連法案の廃止、介護報酬の再引き上げなど、諸要求の実現をめざす行動が急務になっています。この間、国民大運動実行委員会、安保破棄中央実行委員会と共に、国会行動を隔週で行ってきました。中央社保協は、月1回院内集会を開き、国会議員要請行動を行い、昨年母子加算の12月実施を勝ち取りました。今、沖縄普天間問題では「辺野古移転」ではなく、無条件撤去を求め、「政治とカネ」の幕引きを許さず、徹底した糾明を行っていく必要があります。自公政権による社会保障費の削減を取り戻し、社会保障財源としての消費税増税に反対すると共に、社会保障の充実をめざしましょう。

いよいよ直面する参議院選挙です。参議院選挙は、希望のもてる社会を実現するために、「貧困と格差」をなくし、アメリカいいなりの政治と大企業本位の政治をやめさせ、国民本位の政治を取り戻す重要な機会です。私たちの力と世論で、国民の暮らしを守るため、参議院選挙の勝利に向けて奮闘しましょう。

今年は、安保闘争50年、朝日訴訟50年の年です。今こそ、憲法9条の改悪を許さず、25条を生かし社会保障を充実させるたたかいと平和と民主主義、人権を守るたたかいを大きく前進させ、国民のいのちと暮らしを守る共同の運動を更に広げていきましょう。

今総会で出された教訓・意見を踏まえ、社保協運動のますますの発展のため、共にごがんばりましょう。本日確認された方針、「いのちを救う緊急行動」を推進しましょう。

2010年6月12日